

SYLLABUS  
シラバス  
令和8年度前期

視能訓練士科 2年次

医療法人社団 慈恵会  
神戸総合医療専門学校

視能訓練士科 教育課程（令和8年度前期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅱ	1	30	2	前期
情報科学	1	15	1	前期	視能矯正学演習Ⅲ	1	30	2	前期
医用英語	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅳ	1	30	2	後期
心理学	2	30	1	前期	視能障害学Ⅰ	1	30	1	後期
人間関係論	2	30	1	前期	視能障害学Ⅱ	1	30	2	前期
令和8年度前期	1	15	2	後期	視能障害学Ⅲ	1	30	3	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	2	前期	神経眼科Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅱ	1	15	2	後期	神経眼科Ⅱ	1	30	2	後期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	眼薬理学	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	視能訓練学Ⅰ(斜視)	1	30	1	後期
基礎医学Ⅰ	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅱ(弱視)	1	30	2	前期
基礎医学Ⅱ	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅰ	1	30	2	後期
人間発達学	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅱ	1	30	2	後期
保育学	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅰ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅰ	1	15	2	後期	視能訓練学Ⅱ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	視覚リハビリテーション(理論)	1	15	2	前期
臨床心理学	2	30	2	前期	視覚リハビリテーション(実践)	1	30	2	前期
精神衛生学	2	30	2	後期	視能訓練学特論Ⅰ	1	30	3	前期
医療統計学	1	15	2	前期	視能訓練学特論Ⅱ	1	30	3	後期
視能学概論	1	15	1	前期	臨地実習Ⅰ	1	45	1	後期
医療安全管理論	1	15	2	後期	臨地実習Ⅱ	1	45	2	後期
視器の解剖生理Ⅰ	2	30	1	前期	臨地実習Ⅲ	14	630	3	前期
視器の解剖生理Ⅱ	2	30	1	前期	視能学特論Ⅰ	1	30	1	前期
視覚情報処理学	2	30	1	後期	視能学特論Ⅱ	1	30	2	前期
視能検査学総論	2	30	1	前期	総合視能訓練学演習Ⅰ	1	30	1	後期
社会福祉学	2	30	1	後期	総合視能訓練学演習Ⅱ	1	30	2	後期
公衆衛生学	2	30	2	前期	総合視能訓練学演習Ⅲ	1	30	3	前期
専門職連携論	1	15	2	後期	総合視能訓練学	3	90	3	後期
保健医療と福祉	1	15	2	後期					
特別支援教育概論	1	15	2	後期					
基礎視能矯正学Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎視能矯正学Ⅱ	1	30	1	後期					
基礎視能矯正学Ⅲ	1	30	2	前期					
幾何光学	1	30	1	前期					
生理光学Ⅰ	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ	1	30	2	前期					
視覚生理学Ⅰ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅱ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅲ	1	30	2	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅰ	1	30	3	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅱ	1	30	3	後期					
生理光学Ⅰ演習	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ演習	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ演習	1	30	2	前期					
視能検査学Ⅰ	1	30	1	後期					
視能検査学Ⅱ	1	30	2	前期					
視能検査学総合演習	1	30	2	後期					
眼科画像解析学	1	30	2	後期					
視能矯正学演習Ⅰ	1	30	1	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
キャリア教育 I		講義・演習	石井 里奈	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
15 時間 ( 1 単位)		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
キャリア教育 I では、就職活動の前段階として、様々なワークを通して自己分析を行い、PRできる自分の強みを理解し、「なりたい自分」から「なれる自分」へと成長を促す。				
授業の到達目標				
①過去から現在の行動や経験、未来の自分への考え方を深め、自信をもって「人に語れる自分」を認識できる。 ②自らの目指す「キャリア」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション キャリアとは？			
2	自己理解・自己分析① 今までの自分を振り返る			
3	自己理解・自己分析② 現在の自分を知る			
4	コミュニケーション力①			
5	自分の強みを生かした自己PR			
6	コミュニケーション力②			
7	グループディスカッション			
8	社会に求められる人物像とは			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	30%	毎回の授業で作成するシート記入や宿題の課題の結果をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	70%	自己PRを作成し、授業内での発表をもとに評価する(40%)。 授業への取り組み姿勢、グループワークでの他者理解の姿勢や積極性を評価する(30%)。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
「なりたい自分」を目指す シューカツワークBOOK		noa出版		
自由記載	レジュメ・講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
就職活動はもちろん、社会に出てからの「キャリア」に必要な準備のため、主体的で前向きな態度での受講を希望する。				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床心理学		講義	永富 陽子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
自己理解と他者理解を深めながら、臨床現場で役立つ幅広い知識の獲得を目的とする。講義では体験やディスカッションを多く取り入れ、考える機会を提供したい。				
授業の到達目標				
①臨床心理学の基礎的概念について説明できる。 ②さまざまな心理アセスメントの概要を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション 臨床心理学とは			
2	アセスメント① 心理面接			
3	アセスメント② 心理検査 (質問紙法・投影法)			
4	アセスメント③ 心理検査 (描画法・知能検査)			
5	アセスメント④ 心理検査 (乳幼児・高齢者向)			
6	心理療法① 来談者中心療法・遊戯療法			
7	心理療法② 行動療法			
8	心理療法③ 認知行動療法			
9	心理療法④ 日本発祥の療法・精神分析、マインドフルネス			
10	小児心理 小児期・思春期・青年期			
11	医療領域① 視能障害児 (者) ・病院における小児の心理			
12	医療領域② 家族・高齢者の心理			
13	働く現場 ストレスマネジメント			
14	臨床心理学の活用			
15	まとめと解説			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	臨床心理学の基礎的概念を説明できる点を評価基準とする。		
レポート・課題	50%	授業中に実施するワークの提出物をもとに評価する。評価基準は別途授業で説明する。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	必要に応じて資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
よくわかる臨床心理学 改訂新版	下山晴彦 編	ミネルヴァ書房		
自由記載				
備考				



# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
公衆衛生学		講義	小野 一男・井村 聡子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>本科目では生活習慣病、環境問題および人口構造の変化による社会的な問題など現在の公衆衛生の課題について説明する。その中で、公衆衛生の基本的な考え方であるプライマリヘルスケア（PHC）やヘルスプロモーション（HP）の概念を学ぶと共に、地域社会住民や施設集団におけるセルフケアの重要性と医療従事者の役割を考察する。</p> <p>また、医療従事者にとって重要な感染症を重点的に学習し、感染症の基礎知識および感染制御の技術の習得、感染症に対して速やかに専門的判断と対応ができるよう能力を養う。</p>				
授業の到達目標				
<p>現在の公衆衛生の問題について、理解し、自身の意見を述べるようになる。</p> <p>また、医療従事者としての感染症の知識および予防対策をしっかりと習得できるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	公衆衛生学の概念			
2	公衆衛生学の歴史・健康の概念			
3	人口統計・保健統計			
4	社会保障			
5	地域保健			
6	環境保健			
7	母子保健			
8	疫学			
9	成人保健			
10	高齢者保健・学校保健			
11	感染症（1）基礎知識			
12	感染症（2）感染予防とその対策			
13	感染症（3）主な病原微生物			
14	精神保健・産業保健			
15	国際保健			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	30%	①発表、②課題提出、③授業に取り組む姿勢により評価を行う。評価基準は別途示す。		
自由記載		①発表は授業中に実施する発表の内容、②課題提出はレポートなどの提出物の内容、③授業に取り組む姿勢は、私語やスマートホンなどの機器類の使用に関し特に悪いと判断した場合に評価を下げる。④レポート提出は、必修とし提出しなかった者に関しては定期試験の受験資格を与えない。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第17版	松木秀明 編		金原出版	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学Ⅲ		講義	山寄 統子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では斜視・弱視を評価する上で重要な検査である視能検査の目的と方法及び評価などについて基本的知識を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的と方法を説明することができる。 ②検査結果より両眼視機能・眼球運動・AC/A比の評価ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	立体視検査 (検査の目的、各検査の原理と手順)			
2	立体視検査 (各検査の原理と手順、その他の遠近感覚の検査) 小テスト①			
3	網膜対応検査 (赤フィルタ法、Bagolini線条検査、Worth 4 灯試験)			
4	網膜対応検査 (残像検査、残像転送検査、その他の網膜対応検査)			
5	網膜対応検査 (4△基底外方試験・プリズム順応検査) 小テスト②			
6	眼球運動検査 (正常範囲、視診による9方向むき眼位検査)			
7	眼球運動検査 (眼性頭位異常の検査) 小テスト③			
8	眼球運動検査 (Hess赤緑試験、複像検査、大型弱視鏡による眼球運動検査)			
9	眼球運動検査 (注視野検査、牽引試験)			
10	輻湊・開散 (定義、分類、発達、神経支配と中枢、輻湊・開散の単位)			
11	輻湊・開散 (輻湊・開散の単位、輻湊近点、融像性輻湊検査)			
12	輻湊・開散 (検査 調節性輻湊、AC/A比)			
13	輻湊・開散 (障害 AC/A比の障害)			
14	まとめ (立体視検査・網膜対応検査)			
15	まとめ (眼球運動検査・AC/A比)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度を確認するために、適宜小テストを行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編	医学書院		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅲ		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士として勤務する上で重要な知識となる、コンタクトレンズの種類・装着方法などについて学習します。また、中心CFE検査と特殊な視力検査の方法を習得することを目的とします。				
授業の到達目標				
①コンタクトレンズの特徴を説明できる。 ②中心CFE検査の目的や方法を理解し測定できる。 ③logMAR視力やコントラスト検査の検査を行える。 ④授業内容に関わる国家試験問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	コンタクトレンズ①			
2	コンタクトレンズ②			
3	コンタクトレンズ③			
4	コンタクトレンズ④			
5	コンタクトレンズ⑤			
6	コンタクトレンズ⑥			
7	コンタクトレンズの種類と構造			
8	HCL処方			
9	オルソケラトロジー①			
10	オルソケラトロジー②			
11	オルソケラトロジー③			
12	中心CFE			
13	logMAR値の計算			
14	コントラスト検査			
15	中心CFE/コントラスト検査【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	7～8回、12～15回の授業内容について定期試験で評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編		医学書院	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚生理学Ⅲ		講義・演習	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
検影法と電気生理学各種検査の講義と演習を行う。				
授業の到達目標				
検影法と電気生理学各種検査の原理を理解し国家試験過去問を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	検影法			
2	検影法【演習】			
3	検影法【演習】乱視			
4	検影法【演習】動的検影法			
5	検影法【演習】小テスト			
6	電気生理学の基礎（原子の構造）			
7	電気生理学検査の用語・波形とは			
8	網膜電図（正常波形）			
9	網膜電図（異常波形）			
10	特殊な網膜電図、他局所ERGとAZOOR、OMG			
11	視覚誘発電位（正常波形）			
12	視覚誘発電位（異常波形）			
13	眼球電図 EOG			
14	外眼筋筋電図 EMG			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	90%			
レポート・課題				
小テスト	10%	第5回講義にて、検影法の理解度を評価する。評価基準は別途示す。		
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学Ⅲ演習		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
乱視表を用いた乱視矯正（雲霧法）の原理と検査方法を理解することを目的とします。 眼鏡に関する基本的知識を学び、レンズメーターでの眼鏡度数が測定できることを目的とします。				
授業の到達目標				
①雲霧法による乱視矯正を理解し実践できる。 ②眼鏡のレンズ材質やレンズデザインの特徴を説明できる。 ③レンズメーターで各種眼鏡の度数を測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時【講義】 授業開始時期：視能矯正学演習Ⅱ 第9回終了後			
2	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時 ①【演習】			
3	雲霧法 他覚的屈折検査結果がない時 ②【演習】			
4	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
5	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時 ①【演習】			
6	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時 ②【演習】			
7	雲霧法 他覚的屈折検査結果がある時【講義】			
8	眼鏡レンズの材質、多焦点レンズの構造【講義】			
9	眼鏡のフィッティング【講義】			
10	レンズメーター ① 望遠鏡式レンズメーター（単焦点レンズ）【演習】			
11	レンズメーター ② 望遠鏡式レンズメーター（多焦点レンズ）【演習】			
12	レンズメーター ③ 投影式レンズメーター、オートレンズメーター【演習】			
13	雲霧法／レンズメーター ①【演習】			
14	雲霧法／レンズメーター ②【演習】			
15	雲霧法／レンズメーター ③【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題	10%	理解度を評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	実習に取り組む姿勢を評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学Ⅱ		講義・演習	谷口 誠典・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
眼底カメラ、細隙灯顕微鏡、眼底検査としての直像鏡・倒像鏡について講義と演習を行います。				
授業の到達目標				
①各種検査の原理と目的を理解する。 ②各種検査を実施できる。				
授業計画				
回	内容			
1	無散瞳眼底カメラ【演習】			
2	眼底カメラ 講義			
3	無散瞳眼底カメラ【演習】			
4	細隙灯顕微鏡、フォトスリット 講義			
5	隅角（自身の隅角確認）、細隙灯顕微鏡、眼底検査（直像鏡・倒像鏡）【演習】			
6	【散瞳カメラ 後極、点眼時の注意事項】【演習】①			
7	【散瞳カメラ 後極】【演習】①			
8	【散瞳カメラ 後極、周辺（上方）】【演習】②			
9	【散瞳カメラ 後極、周辺（上方）】【演習】②			
10	【散瞳カメラ 後極、周辺（側方・下方）】【演習】③			
11	【散瞳カメラ 後極、周辺（側方・下方）】【演習】③			
12	眼底カメラ 演習 後極			
13	眼底カメラ 演習 周辺			
14	眼底カメラ 演習 周辺部撮影のポイント			
15	まとめプリント			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	課題プリントにて評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅱ		講義・演習	荒木 渚・山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
複数の眼科一般検査を一連の流れで行い、基本の検査原理と手順に則った行動を系統だてて実行できるようになることを目的とする。				
授業の到達目標				
①複数の検査を実施する順番を考慮することができる。 ②患者の安全と感染防止に配慮した誘導・検査を実施できる。 ③一連の検査結果を系統だてて考察することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	復習プリント（レフケラ、NCT）【講義】			
2	復習プリント（クロスシリンダー法）【講義】			
3	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ①【演習】			
4	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ②【演習】			
5	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ③【演習】			
6	レフケラ、NCT、レフ値参考のクロスシリンダー法 ④【演習】			
7	クロスシリンダー法 過矯正スタート【講義】			
8	レフ値参考のクロスシリンダー法 過矯正スタート ①【演習】			
9	レフ値参考のクロスシリンダー法 過矯正スタート ②【演習】			
10	前回値矯正の手順【講義】			
11	前回値矯正 ①【演習】			
12	前回値矯正 ②【演習】			
13	KBチェックとdo矯正【講義】 授業開始時期：生理光学Ⅲ演習 第12回終了後			
14	KBチェックとdo矯正 ①【演習】			
15	KBチェックとdo矯正 ②【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実技試験と口頭試問を行い、その合計で評価します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能矯正学演習Ⅲ		演習	山寄 統子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
本演習では基礎視能矯正学Ⅲの授業と並行し、斜視検査の基礎と応用について学びます。基礎的知識を固めながら、適切に検査を実施し、得られた検査結果を評価し考察する力を身につけることを目的としています。				
授業の到達目標				
①各視能検査の目的、方法、結果の解釈について理解する。 ②正しい検査手順で行い、カルテ記載ができる。 ③各検査の違いを理解し、結果を評価することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	立体視検査・網膜対応検査①グループ課題 (実習室) 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第5回終了後			
2	立体視検査・網膜対応検査②グループ課題 (実習室)			
3	立体視検査・網膜対応検査③グループ課題 (実習室)			
4	立体視検査・網膜対応検査④グループ課題 (実習室)			
5	立体視検査・網膜対応検査⑤グループ課題 (実習室)			
6	眼球運動検査①グループ課題 (実習室) 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第9回終了後			
7	眼球運動検査②グループ課題 (実習室)			
8	眼球運動検査③グループ課題 (実習室)			
9	眼球運動検査④グループ課題 (実習室)			
10	眼球運動検査⑤グループ課題 (実習室)			
11	輻湊・開散の検査①グループ課題 (実習室) 授業開始時期：基礎視能矯正学Ⅲ第13回終了後			
12	輻湊・開散の検査②グループ課題 (実習室)			
13	輻湊・開散の検査③グループ課題 (実習室)			
14	輻湊・開散の検査④グループ課題 (実習室)			
15	輻湊・開散の検査⑤グループ課題 (実習室)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	毎回の授業で取り組む課題について、理解力、考察力、表現力を評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	50%	実技試験により評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能障害学Ⅱ		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
【視能障害学Ⅱ】では視機能に重大な影響を持つ後眼部疾患や、全身疾患に合併する眼疾患などの病態生理が説明できることを目的とします。これらの病態生理が確実に把握できていることで、眼科疾患の診断と治療評価のための眼科検査の意義の理解が明確になり、視能訓練士としてのレベルの高い業務が行えるようになります。				
授業の到達目標				
①眼球の解剖・生理と関連付けて、後眼部疾患の病態生理が理解できる。 ②後眼部疾患の診断や治療評価に、視能訓練士が行った検査結果がどのように役立てられるのかが理解できる。				
授業計画				
回 内容				
1	ぶどう膜疾患（1）	先天異常、ぶどう膜炎（総論）		
2	ぶどう膜疾患（2）	ぶどう膜炎（各論）、腫瘍		
3	網膜硝子体疾患（1）	主な眼底変化		
4	網膜硝子体疾患（2）	網膜循環障害（網膜中心動脈閉塞症、ほか）		
5	網膜硝子体疾患（3）	黄斑部疾患（加齢黄斑変性、ほか）		
6	網膜硝子体疾患（4）	夜盲性疾患、小児網膜疾患		
7	網膜硝子体疾患（5）	網膜剥離、硝子体疾患		
8	網膜硝子体疾患（6）	治療法（光凝固、硝子体手術、硝子体注射）		
9	眼窩疾患	甲状腺眼症、眼窩吹き抜け骨折、ほか		
10	全身疾患と眼（1）	循環器系疾患、糖尿病、ほか		
11	全身疾患と眼（2）	膠原病と近縁疾患、感染症、ほか		
12	眼外傷	鈍的眼外傷、外傷性視神経症、ほか		
13	その他の眼疾患（1）	神経眼科疾患		
14	その他の眼疾患（2）	色覚異常、屈折異常、救急疾患、ほか		
15	総括			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのため小テストを講義ごとに行います。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
神経眼科 I		講義	谷口 誠典	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
核・核下性疾患について、脳神経の走行や血管などできるだけ多くのイラストを描きながら、複雑な神経や血管の走行をわかりやすく解説し病態生理を説明します。				
授業の到達目標				
①核・核下性疾患の病態生理を理解する。 ②分野毎に国家試験過去問題を解くことで、疾患の重要項目を掴むことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	うっ血乳頭			
2	視神経炎、RAPD			
3	視神経症 (虚血性、外傷性など)			
4	練習問題			
5	動眼神経麻痺			
6	滑車神経麻痺、先天性代償不全性IV麻痺			
7	外転神経麻痺、複合筋麻痺			
8	脳卒中、片頭痛			
9	眼球突出 (Basedow病)			
10	視路疾患① (頭蓋内疾患)			
11	視路疾患② (特殊な視野、高次脳障害)			
12	重症筋無力症、慢性進行性外眼筋麻痺			
13	前期の総復習①			
14	前期の総復習② 参考動画の鑑賞			
15	前期の総復習③			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	自己の理解度を確認する為、分野毎に小テストを実施する。小テストは評価基準には入れない。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
病態生理を理解することは、診察に役立つ検査を実践することに繋がります。頑張ってください。				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
眼薬理学		講義	宮崎 茂雄	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は点眼薬を用いて眼科検査をすることがあります。また、様々な薬物治療を受けている患者と接することになります。【眼薬理学】では、臨床現場からの視点で、視能訓練士として、さらには医療従事者として必要な薬物に関連する知識を修得することを目的としています。				
授業の到達目標				
①点眼薬の投与方法、吸収経路、副作用が説明できる。 ②眼科検査で使用される自律神経作動薬の薬理作用、使用方法が説明できる。 ③代表的な眼科疾患治療薬、全身疾患治療薬が説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 「くすり」の話			
2	創薬とジェネリック医薬品			
3	薬が効くメカニズムと投与方法			
4	眼科局所投与 点眼薬・眼軟膏			
5	点眼法			
6	自律神経と瞳孔作動薬			
7	その他の自律神経薬と抗緑内障薬			
8	小括（1）			
9	抗菌薬、抗ウイルス薬、ワクチン			
10	抗炎症薬、ほか			
11	その他の眼科治療薬（1） 注射薬			
12	その他の眼科治療薬（2） 点眼薬、検査薬			
13	主な全身疾患治療薬			
14	薬物中毒・薬物の眼科的副作用			
15	小括（2）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載		理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。		
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載	講義内容に沿った資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
点眼薬 クリニカルブック 第2版	庄司純 編著		金原出版	
点眼薬の選び方 第2版	石岡みさき 著		日本医事新報社	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能訓練学Ⅱ（弱視）		講義	谷口 誠典	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
この科目では、医学的弱視について総合的に学ぶ。視能訓練士は臨床の場で弱視患者に対して検査や訓練を行う為、基本的知識をはじめ、臨床で役立つ検査や訓練法を理解することが必要である。これまでに習得した検査法や斜視の知識を関連付けて授業を進める。				
授業の到達目標				
①小児の視能特性と視覚の発達について学ぶ。 ②弱視の定義・概念について説明ができる。 ③弱視の原因、病態、検査、治療を理解している。 ④心因性視力障害について理解し、検査時の注意点を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	小児の視能特性と視覚の発達 / 弱視の定義・病態（総論） / 弱視治療（総論）			
2	弱視の分類・各型（屈折異常弱視、経線弱視、不同視弱視）			
3	検査と治療（屈折異常弱視、経線弱視、不同視弱視）			
4	弱視の分類・各型（斜視弱視・微小斜視弱視）			
5	検査と治療（斜視弱視・微小斜視弱視）			
6	弱視の検査（統合系検査）弱視の分類・各型（形態覚遮断弱視）			
7	検査と治療（形態覚遮断弱視）			
8	弱視の治療（弱視治療用眼鏡等、眼鏡処方、遮閉法）			
9	弱視の治療（薬理的視能矯正）			
10	弱視の治療（固視矯正訓練、家庭での訓練）			
11	ケーススタディ①			
12	ケーススタディ②			
13	心因性視覚障害（身体表現性障害）①			
14	心因性視覚障害（身体表現性障害）②			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚リハビリテーション（理論）		講義	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
ロービジョンとは視覚障害によって日常生活において何らかの支障をきたす状態をいう。本科目では視覚障害に対するリハビリテーションのために必要な視覚障害の定義や原因など基礎的な知識及び、ロービジョンケアに必要な視機能評価、社会福祉制度について理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
①社会福祉の理念とリハビリテーションの概念を説明することができる。 ②ロービジョンケアに対する視能訓練士の役割を説明することができる。 ③ロービジョン者の視機能評価を行うことができる。 ④ロービジョンに関わる社会福祉制度を説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	社会福祉理念とリハビリテーションの概念			
2	障がいの定義 ロービジョン者の見え方を理解する			
3	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ①視力の評価			
4	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ②視野の評価			
5	視能障害およびロービジョンの定義と範囲 ③重複障害の評価 その他障害の基準			
6	ロービジョンケアの概念 ロービジョン者数の推移とその原因（小テスト）			
7	視覚障害と福祉・教育・就職について			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載		理解度を確認するための小テストを行う。		
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能学エキスパート ロービジョンケア	新井千賀子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視覚リハビリテーション（実践）		講義・演習	荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
視覚リハビリテーション（理論）の発展として、視覚障害リハビリテーションの実践に必要な知識とロービジョンだけでなく多様な視覚の障害について理解することを目的としている。				
授業の到達目標				
①視覚補助具の選定に必要な倍率の計算ができる。 ②視覚補助具の特徴を捉え選定ができる。 ③視覚異常をきたす他の障害について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	視覚補助具 光学的補助具の倍率① Vergence			
2	視覚補助具 光学的補助具の倍率② 拡大方法			
3	視覚補助具 光学的補助具の倍率③ 基準倍率と商用倍率			
4	視覚補助具 手持ち式拡大鏡			
5	視覚補助具 卓上式拡大鏡・眼鏡式拡大鏡・強度の凸レンズ眼鏡			
6	視覚補助具 単眼鏡			
7	視覚補助具 遮光眼鏡			
8	視覚補助具 非光学的補助具 補装具・日常生活用具			
9	ロービジョンに関する計算問題			
10	発達障害と視覚異常① 脳の機能			
11	発達障害と視覚異常② 発達障害とは			
12	発達障害と視覚異常③ 視覚認知機能			
13	高次脳機能障害と視覚異常			
14	視覚補助具の体験（実習室）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度を確認するための小テストを行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート ロービジョンケア	新井千賀子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学特論Ⅱ		演習	山寄 統子・坂東 恵美子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次で習った基礎知識の定着と検査技術の向上を図る。</li> <li>・グループワークやレクリエーションを通してコミュニケーション力を高める。</li> <li>・臨地実習や国家試験に向け、自身の課題を整理し、学校生活を見直すきっかけとする。</li> </ul>				
授業の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識の定着・技術向上を図り、日々の講義に活かすことができる。</li> <li>・他者とコミュニケーションをとり、互いに協力しながら物事を進めることができる。</li> <li>・臨地実習や国家試験に向け、自己目標を立て行動することができる。</li> </ul>				
授業計画				
回	内容			
1	学校生活オリエンテーション① 1年次後期の振り返り・2年次前期の自己目標を考える			
2	学校生活オリエンテーション② 日番表制作			
3	学校生活オリエンテーション③ 総会準備			
4	検査実習に向けての練習① PD 視力検査			
5	検査実習に向けての練習② 眼位検査			
6	1年次への検査実習			
7	臨地実習Ⅰの振り返り 合同実習の振り返り			
8	レクリエーション①			
9	レクリエーション②			
10	車いすの操作、介助と誘導 実習（坂東）			
11	車いすの操作、介助と誘導 実習の振り返り（坂東）			
12	科目学習・演習① 大型弱視鏡スライド制作			
13	科目学習・演習② 大型弱視鏡スライド演習			
14	1年次との合同実習			
15	2年次前期の振り返り			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	提出物により評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	50%	授業への取り組みや姿勢をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
なし				
自由記載	適宜資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
日程調整等により内容が前後する場合があります。				